

今、子どもにとって本当に大切なもの

～放課後の居場所を考える～

フロアディスカッションの内容

矢郷さん

- 「安全」が優先される「キッズ」「はまっ子」と「プレイパーク」の“住み分け”を明確に発信していく！！
- 「要素」は同じでも「中身」は同じではない大きくはつながっているけど、それぞれでできることは違う。
- プレイパーク「暮らす力を養う」



自分で工夫する
満足する

汚してもいい

調理したり

途中で帰ってもいい

名前のない遊び

スタッフに求められる

環境を取り巻く

環境を豊かにする力

- 国分寺でのアンケート結果の紹介

<子どもが外で遊ばない理由>

- ① 遊べる場所がない
- ② 塾や習い事で忙しい
- ③ 家での遊びの方が面白い

外で遊ばない理由
子どもの回答の第3位！

子どもがやりたい遊び NO.1

小屋づくり

笹井先生

- それぞれの趣旨の違いがある
それを理解する必要がある

プレイパークのいいところ

- 子どもが自分で考え、選択できる場

子どもは放っておいても育つ

⇒日本赤ちゃん学会の報告：

母親のお腹の中にいるときから考え、
動いている

放って置かれる環境

昔に比べて
減ってきている

- リスクを認識することができる場
- (異年齢) 交流ができる場
- 子どもが規範 (ルール) を作ることができる場

YPC 河上より

- 横浜市の放課後の居場所は、公立小学校数に対して 103 % の設置率 (神奈川県 30%)。
- 全国的に見ても、「安全・安心」な居場所の数は保障されている。その中で、主体的な遊びをどう保障していくかが今後の課題。
- 「キッズ」「はまっ子」は「安全・安心」に子どもを「預かる」場所という前提がある。プレイパークは「預かる」場所ではなく子どもが自由に参加する場所。趣旨・目的の違いはあるが、居場所としては共通の課題も。

【パネリスト】

- ・ 笹井 宏益さん
- ・ 矢郷 恵子さん

【調査報告】

- ・ 高橋利道（NPO 法人 YPC ネットワーク プレイリーダー）
- ・ 河上順子（NPO 法人 YPC ネットワーク 理事）

会場からの声

はまっ子の活動がプログラム型になってきました。プレイパークも普及して数が増えていくと、方向性がどうなっていくか…。

- はまっ子・キッズも学校によって大分違います。子どもにとっては、自分で選択できる良さもあると思う。
- 子どもの学校の事業では、思ったより異年齢交流が少ないし、子どももあまり参加しない。なにもない公園でも、自分で遊びを見つけている

- 子どもの周囲では、習い事にいく子が多く、子どもの予定を埋めるために習わせているような様子も伺える。
- “住み分け”の話に少しびっくりしました
- プレイパークのいいところはいろいろある。これからも頑張って活動していきたい。
- PTAのお母さんに協力をお願いしていますが、なかなかリピーターになっていかない。どうやっていいところを伝えていけばいいか。

YPC 河上より

- 子どもの選択なのか、大人の選択なのか…子どもが、自分で選べる場所はますます必要。
- 子どもが選択できるようにといても、プレイパークは市内にまだ20ヶ所程なので、これからもっと増やしていきたい。
- 「安心・安全」を保障するために、子どもの育ちに必要な「チャレンジの機会」が失われる側面もあるのでは。

矢郷さん

- 「安心・安全」を誰かに委ねていないか？
「誰が責任をとってくれるのか？」
- 横浜市は他都市と比べて居場所事業が充実しているという現状に対し「なぜ多いのか？」を考えて見ることも重要。
- 遊び場で大切なことの一つには、
「親が社会化しているか」
⇒ 社会が変わっていく力
- 私たちが目指す「安全・安心」がどういったものかを言葉にして行政に伝えていく必要性

笹井先生

- 日本「獲得するための学び」
- 欧州「生きるための学び」

learning to have

learning to be

YPC 河上より

- プレイパークは子どもだけではなく、親や地域の人など大人の居場所にもなっている。
- 「大人の学び」が「地域の学び」を支えている。
- 本当に「生きる力」を身につけるには？

笹井先生

- 今の子どもは**現実性（リアリティ）を感じる力**が低下している。
- 「安全・安心」
⇨危機を回避できるリアルな体験を
子どもの頃にどこまでできるか
- 今の世の中「管理されている」
- プレイパークの必要性はある。必要性・成果をどんどん発信・共有しよう！